



蘇る一瞬 みとよ写真帳 page 54

このコーナーは、文書館に保存している古い写真を皆さんに紹介します。



懐かしの1枚

とかがみやま 爺神山から新築の東中学校を望む 昭和27(1952)年 高瀬町

中央の大きな建物が、上高瀬・勝間・比地二の三ヶ村組合立東中学校。昭和27(1952)年1月17日に竣工した。現在の旧高瀬町公民館・高瀬町図書館の位置にあった。その手前の2階建の建物が警察署で、現在の百十四銀行の位置にあった。その手前には、上高瀬駅(現・高瀬駅)のホームが見える。現在の高瀬駅と市役所・国道11号線を結ぶ道はまだ通っていない。

※文書館では、まちの風景や催事などの古い写真を収集しています。原本はお返ししますので、情報の提供をお願いします。【文書館 ☎63・1010】

「思い出の1ページ」

「この写真は爺神山から見た三ヶ村組合立東中学校ですね。当時は上高瀬・勝間・比地二の3つの村から700人を超える生徒が通っていました」と話すのは、開校当時1年生だった小野健一さん(77)。
「写真中央の白い2つの建物が校舎、その右隣が運動場です。運動場と言っても山から運んできた土で、大小の石がたくさん混じっていました。開校してしばらくは、石の取り除きや、ローラーを引いて整地するのが生徒の日課でしたね。
当時の思い出に『校内駅伝大会』があります。私が3年生のとき、東中学校が郡大会で初出場初優勝したことをきっかけに、生徒たちから校内駅伝大会をしようという声が上がりました。そして、みんなで話し合った結果、開催日は旧正月の1月24日に決定。その後の代表者による協議で、3つの村を7人でタスキを繋ぐコースに決まりました。駅伝当日、第一走者が校舎前を上高瀬駅(現高瀬駅)に向かってスタートします。レース終盤、5区走者の私は2番手でタスキを受けました。トップの走者とは随分と離れていましたが、追いつこうと必死で走りだしま

した。
途中、田んぼに囲まれた道を走っていると、田んぼの中にある農作業中の大勢の人が、選手に向かって大きな拍手と声援を送ってくれるんです。その迫力ある応援の後押しもあり、生徒たちは元気に走ることができました。

昭和30年の町制施行とともに名称は高瀬中部中学校に変わりましたが、中学時代の思い出は60年以上たった今も鮮明に覚えています」と、熱く話してくれました。
当時の中学校の様子が生徒の思い出とともに綴られた書籍「東中学あゝわれら」があります。高瀬町図書館で読むことができます。ぜひご覧ください。

編集 後記
香川病院主催の講演会の取材で、認知症当事者の丹野さんのお話を聞きました。
丹野さんが発する言葉には重みがあり、聴衆の心に響くものがありました。講演終了後、会場の外で丹野さんを囲む大きな輪が、とても印象深かったです。

